

日本学術振興会
プロセスシステム工学第143委員会
第136回委員会議事録

1. 日 時： 平成14年2月8日（金） 13：00～13：20
2. 場 所： 東京 弘済会館 （東京都千代田区麴町5-1）
3. 出席者： 39名（順不同）
委員長：小野木克明（名古屋大）
委 員：高松武一郎（京都大学）、橋本伊織（京都大学）、西谷紘一（奈良先端大）、大杉 健（ジャパンエナジー）、小西信彰（横河電機）、重政 隆（東芝）、鈴木 剛（東洋エンジニアリング）、黒田千秋（東京工業大学）、長谷部伸治（京都大学）、柘植義文（九州大学）、平尾雅彦（東京大学）、山下善之（東北大学）、橋爪 進（名古屋大学）、仁井田和雄（千葉工業大学）、塩谷捨明（大阪大学）、鈴木和彦（岡山大学）、栗本英和（名古屋大学）、瀧野哲郎（東京工業大学）、武田和宏（九州大学）、矢野智之（名古屋大学）、黒岡武俊（奈良先端大）、加納 学（京都大学）、北島禎二（豊橋技術科学大学）、松本秀行（東京工業大学）、今福 啓（奈良先端大）、立野繁之（九州大学）、樋口文孝（出光石油化学）、山崎克彦（鐘淵化学工業）、岩崎純尊（クラレエンジニアリング）、柳本 薫（システムプラザ）、轡 義則（住友化学工業）、中本政志（代理：飯野 穰、東芝）、春成 孝（代理：八木沢和広、日産化学工業）、西野由高（日立製作所）、林田 豊（三井化学）、糸島 章（三井造船）
委員以外の出席者：
佐渡友秀夫、篠田拓也（横河電機）

4. 委員会

- 1) 平成14年度研究会の案内があった。
平成14年5月10日（金）、11日（土） 浜松（アクトシティ浜松コンgresセンター）
平成14年7月19日（金） 東京（弘済会館）
平成14年10月4日（金） 関西
平成14年12月13日（金） 東京（弘済会館）
平成15年2月7日（金） 東京
- 2) 平成14年度5月の泊り込み研究会での議論の参考のためにアンケートを実施することの説明があった。（資料#1）
- 3) ワークショップ No. 25 の参加状況について説明があった。（資料#2）
また、第1回研究会を4月18日に開催予定であるとの報告があった。
- 4) 未来開拓推進事業の最終評価について報告があった。その概要は次のようである。
委員会に対して
 1. 研究経過の報告会、国際シンポジウムの開催を支援し、次世代の化学プラントの知的支援システムの開発についての新しい方向を具体的に示したことは評価できる。
 2. 産業界からの支援状況、その内容については報告書のなかではほとんど触れられていないが、その支援システムのプロトタイプ提案など産業界へのインパクトは大きく、研究成果を産業界の委員を通じて社会に還元して欲しい。
 3. サブテーマ「クリーン・プロダクション・システム化のための LCA システムの開発」については難解で、そのためあまり成果があがらなかったことは理解できるが、当初の目的に照らし合わせて成果をもう一度再検討して、この研究成果が次世代の支援システムの開発に向かっていくための方向性を議論して欲しい。そして、LCA システムが開発されれば社会的に大きなインパクトが大きいため、このテーマについて継続的に検討して欲しい。プロジェクトに対して
 1. 製品の品質を保証したり、ヒューマンファクタや環境ファクタを組み込んだプラント設計支援システムの開発は極めて重要な提案であり、今後とも是非展開して欲しい。

2. 個別課題で得られた成果は評価できるが、次世代化学プラントの知的支援システムの開発が最終目標であることを考えると、そのイメージが必ずしも明確にはされなかった。
3. サブテーマ「クリーン・プロダクション・システム化のための LCA システムの開発」については今後の課題として残ったが、この研究で得られた成果をもとに今後ともこの問題に積極的に取り組んで欲しい。

配布資料：

#1: 5月の研究会に向けてのアンケート

#2: ワークショップ No. 25 参加者名簿